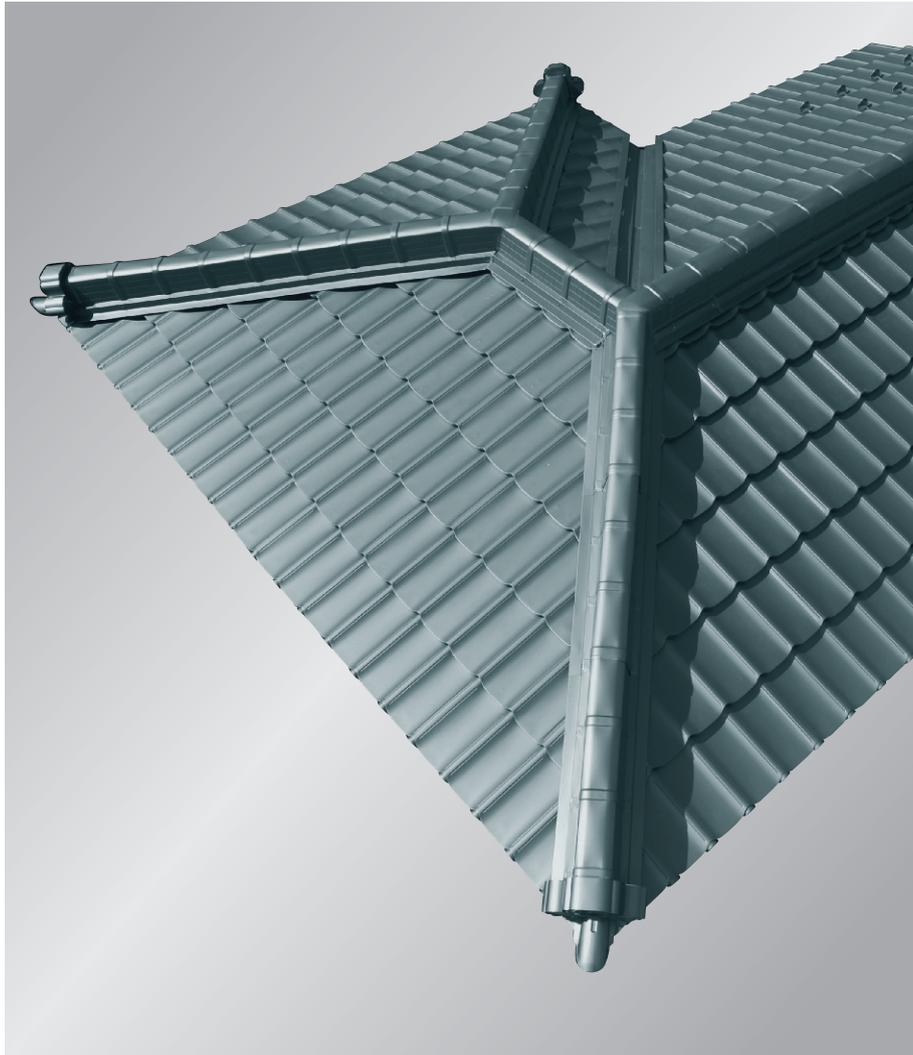




施工マニュアル



事故防止のための安全管理

ICメタル瓦・皇瓦の施工(新築/改修)にあたっては、関連法規を遵守し下記の注意事項に留意してください。



1-1●安全上の注意

1. 屋根工事は高所作業です。高所作業は関係法規に従ってください。
2. 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。風にあおられる・雨や雪で滑るなどの原因で落下事故の可能性があります。
3. 屋根材の荷揚げや一時仮置きする時は、滑り落ちないように固定するなど、滑落防止の措置をしてください。
4. 施工前に屋根材を置くときは、堅固で平らな場所に水平に置いてください。
5. 取り扱いには手袋など適切な保護具を着用してください。
6. 電動工具などを使用する際は、各工具の取り扱い説明書に従って正しくご使用ください。
7. 整理・整頓など公衆災害の防止に心掛けてください。
8. 作業前に健康状態を確認し、作業規律を厳守してください。

1-2●移動・荷揚げ時の注意

1. 荷揚げにクレーンを使用する場合は、クレーン作業半径内に立ち入らないでください。強風雨時の荷揚げは絶対禁止です。
2. 適正な吊り具を使用し、当て板等を用いてロープ掛けによる損傷を防いでください。
3. 製品の表面は滑りやすいので、製品の上に乗ったり歩行したりしないでください。転落する危険があります。
4. 屋根上に荷揚げした製品は、長時間放置せず速やかに施工してください。風雨により荷崩れする恐れがあります。
5. 手で扱う場合は必ず軍手・皮手を使用してください。製品のエッジ部は鋭利になっています。切傷の危険があります。
6. 輸送中は荷崩れを起こさないよう布バンドなどで荷締めしてください。
7. 輸送・保管中は必ず製品に防水シートを掛けてください。風雨により製品本来の性能が劣化する危険があります。
8. 使用するまでは、屋内の平らな場所に枕木やパレットを敷きその上に保管してください。
9. 製品表面に傷をつけるような靴の使用は止めてください。
10. 屋根に上がる時は、靴底の泥を落としてから上がってください。

1-3●改修工事の注意

- 施工時には屋根上の移動に伴う動荷重ならびに材料の屋根揚げ時に荷重が集中することがあります。また、施工後は既存の屋根に鋼板・厚さ0.4mmで約5kg/m²の静荷重が加わります。必ず構造上の安全性をご確認ください。
- 屋根上での移動やビス締めによる振動などにより、埃や切り屑が屋内に落ちることがあります。必要に応じて適切な屋内の養生を行なってください。

この施工マニュアルは
皇瓦を安全に綺麗に
葺くための手引きです。

目次

事故防止のための安全管理	2
ICメタル瓦・皇瓦 仕様と特長	4~5
本体瓦の枚数算出法	6
施工手順 ●和風納め/洋風納め	7
1 実測して屋根下地を確認	8
2 下葺材の敷込み	
3 本谷の取付け	9
4 下り棟の取付け	
5 棧木の取付け	10
6 ケミカル面戸の敷込み	11
7 化粧水切の取付け	
8 断熱材の敷込み	
9 軒先袖瓦・軒先瓦の施工	12
10 袖瓦・本体瓦の施工	13
11 雪止め金具の取付け	14
12 軒先丸飾りの取付け	15
13 谷アングルの取付け	
14 下り棟の納め(寄棟用)	16~17
15 主棟の納め	18~19
16 鬼飾りの納め(主棟切妻用)	19
17 壁面の納め	20
18 ●洋風納めの場合(オプション仕様)	21
19 主棟・下り棟の納め	22
20 けらば部材の取付け	23

ICメタル瓦 皇瓦 仕様と特長

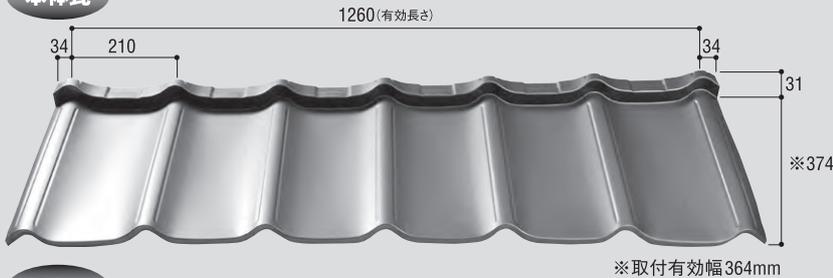


軽くて丈夫・格調高い意匠性。

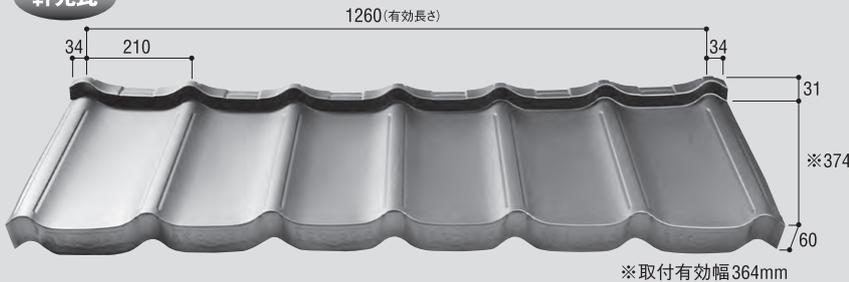
- ICメタル瓦 皇瓦(おうが)は、軽くて丈夫、割れる心配がないので地震などの自然災害にも安全です。
- 重厚感のある優雅なたたずまいは和風・洋風を問わず様々な建築様式の新築・改修屋根に美しく調和します。
- 本体の取付は表面に固定釘が現れない吊子工法で、規格部材と役物を組合せ素早く、きれいに仕上がります。
- 本体と同じ形状のバックアップ材を採用し、断熱・防露性能を高めると同時に、うるさい雨音の減音対策にも有効です。

構成部材 ◎製品寸法(mm)

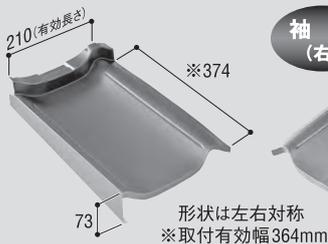
本体瓦



軒先瓦



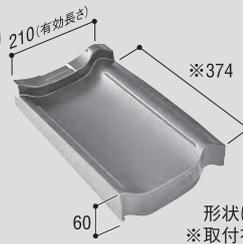
袖瓦 (左)



袖瓦 (右)



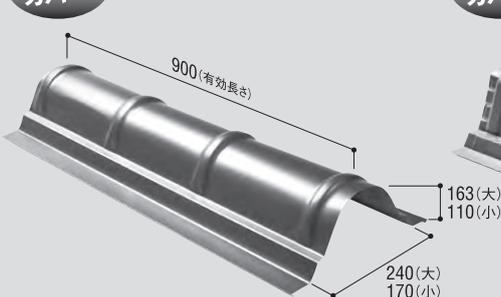
軒先袖瓦 (左)



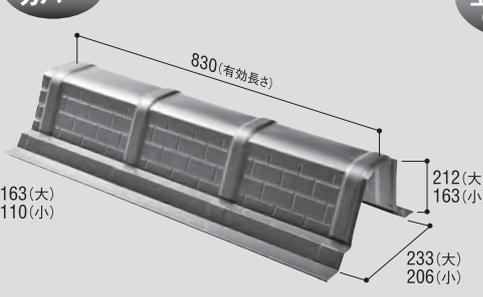
軒先袖瓦 (右)



丸棟カバ-



角棟カバ-



鬼飾 主棟切妻用 (自由勾配)



本体仕様

山数	6山
板厚	0.4mm
有効長さ	1260mm
有効幅	364mm
有効面積	0.459m ²
1枚あたりの重量	2.2kg
1坪あたりの必要枚数	7.2枚
1m ² 当り重量	5.026(kg/m ²)
施工可能勾配	2.5寸以上

標準色

●銀黒(ギングロ)、黒(ブラック)／フッ素遮熱鋼板：板厚0.4mm

塗膜
20年保証

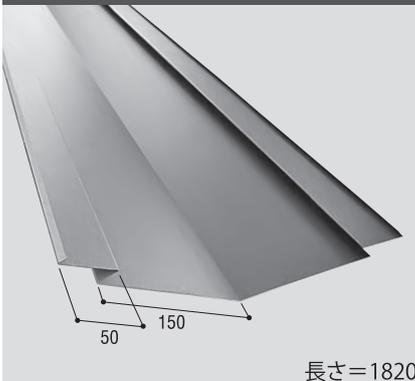
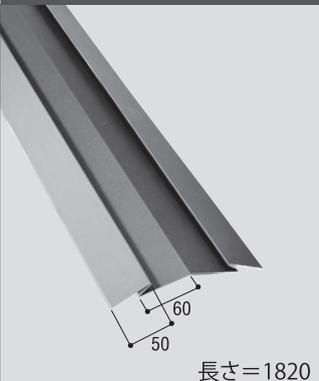
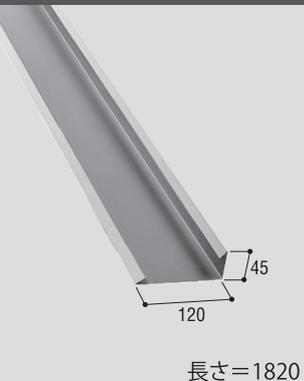
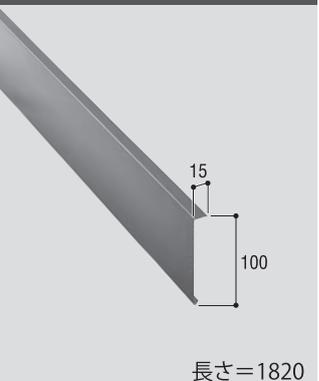
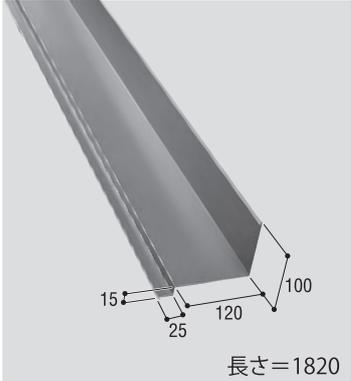
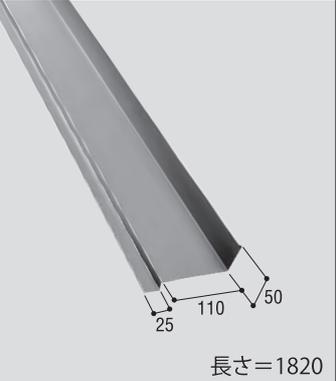
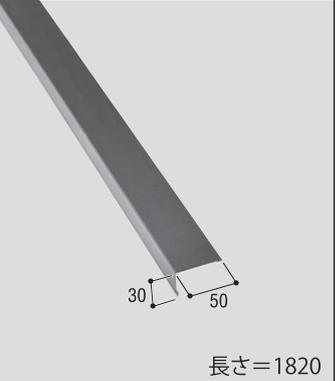
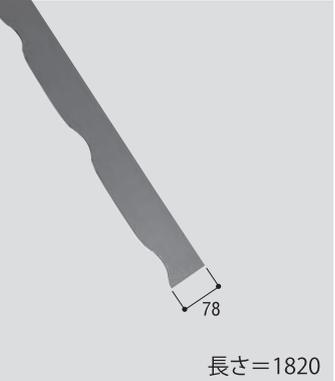
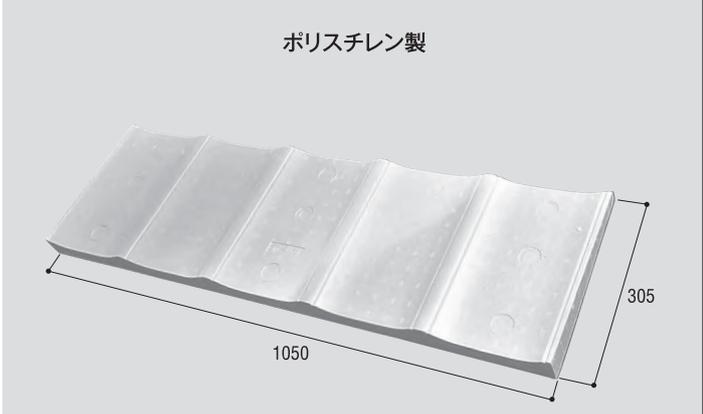
用途

住宅、店舗、体育館、商業施設、スポーツ・レジャー・イベント施設、また、古民家の茅葺・瓦葺・スレート葺などの葺替えやデザインを重視した内外装分野にも活用できます。

標準役物

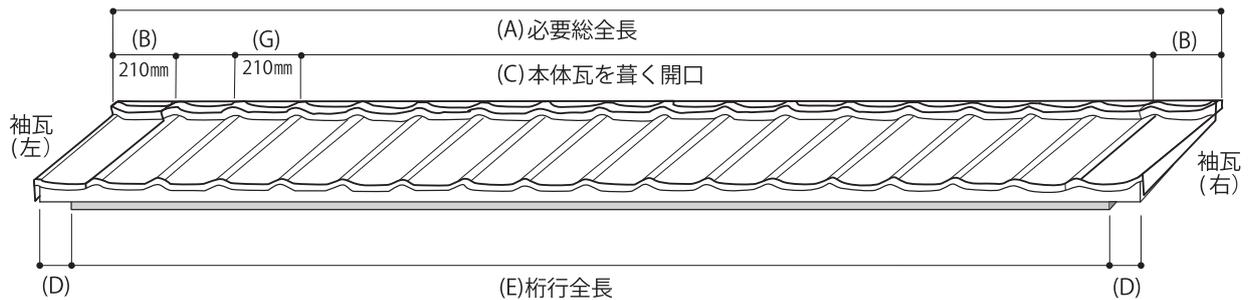
●スケッチサイズもご相談ください。

※単位(mm)

本谷	捨水切(下り棟用)	捨谷	化粧水切
 <p>長さ=1820</p>	 <p>長さ=1820</p>	 <p>長さ=1820</p>	 <p>長さ=1820</p>
雨押え・妻側	雨押え・桁側	谷アングル	棟エプロン
 <p>長さ=1820</p>	 <p>長さ=1820</p>	 <p>長さ=1820</p>	 <p>長さ=1820</p>
断熱材(バックアップ材)	ケミカル面戸	雪止め金具	
<p>ポリスチレン製</p> 	<p>エプトシーラー(片面粘着)</p>  <p>主棟・桁雨押用 20×30×2000 谷・下棟用 50×30×2000</p>	<p>SUS 304 ステンレス製</p> 	

本体瓦の枚数算出法

□袖瓦を使って納める場合



- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| (A) 必要総全長 (mm) | (F) 瓦の山数 ※小数点以下は切上げる (例) 35.2⇒36 とする |
| (B) 袖瓦有効幅 (mm) | (G) 瓦のピッチ 210mm(1 山) |
| (C) 本体瓦を葺く間口 (mm) | (H) 本体瓦の有効幅 1260mm(6 山) |
| (D) 桧木の寸法 (mm) | (I) 1 列に必要な本体瓦の枚数 |
| (E) 桁行き全長 (mm) | (J) 本体瓦の端数 |

■算出例：桁行き全長 (E) が 9960cm の場合

○桧木の必要出寸法 (D) を算出する

$$(E) \div (G) = (F) \quad 9960 \div 210 = 47.42 \Rightarrow 48 \text{ とする}$$

$$(F) \times (G) = (A) \quad 48 \times 210 = 10080$$

$$(A) - (E) = 2D \quad 10080 - 9960 = 120$$

$$(2D) \div 2 = D \quad 120 \div 2 = 60$$

○本体瓦の枚数を算出する

$$(A) - (2B) = (C) \quad 10080 - (210 \times 2) = 9660$$

$$(C) \div (H) = (I) + (J) \quad 9660 \div 1260 = 7.66 \text{ (7枚と端数)}$$

$$(C) - (7H) = \frac{(J)}{(G)} \quad 9660 - (1260 \times 7) = \frac{840}{210} = 4 \text{ 山}$$

★1段横1列の必要枚数は本体瓦7枚と端数4山です。

施工手順・和風納め

現地調査/屋根下地の確認

下葺材の敷込み

本谷の取付け

下り棟の取付け

栈木の取付け

ケミカル面戸の敷込み(本谷)

化粧水切の取付け

断熱材の敷込み

軒先袖瓦・軒先瓦の施工

袖瓦・本体瓦の施工

雪止め金具の取付け

軒先丸飾りの取付け

谷アングルの取付け

下り棟の施工

ケミカル面戸の敷込み
下り棟の施工
棟カバーの取付け
鬼飾りの取付け

主棟の施工

断熱材の敷込み
ケミカル面戸の敷込み
主棟の施工
棟エプロンの取付け
棟カバーの取付け
鬼飾りの取付け

各納まりの点検と清掃

最終検査・引渡し

◆壁面がある場合

桁側・妻側の施工

洋風納め

◆洋風納めの場合(オプション仕様)

洋風は「けらば納め」を除き和風と同じ手順です。

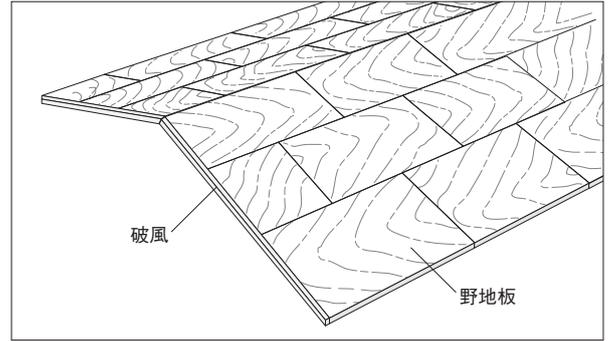
- けらばの栈木取付け
- 捨板水切の取付け
- 洋風の軒先は本体瓦を使って施工(和風は軒先袖瓦・軒先瓦を使用)
- 2段目以降の本体瓦、主棟・下り棟の施工は和風に準じます。

1 実測して屋根下地を確認

1-1 勾配・流れ・桁行寸法・野地板の厚さなどが図面の施工基準に合っているか確認してください。

■適応条件

- 屋根勾配: 25/100 (2.5寸) 以上
- 野地板 (耐水合板) の厚さ: 12mm以上



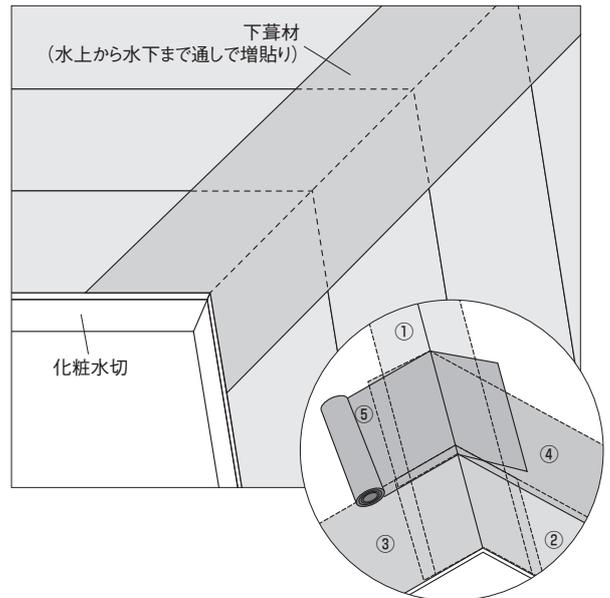
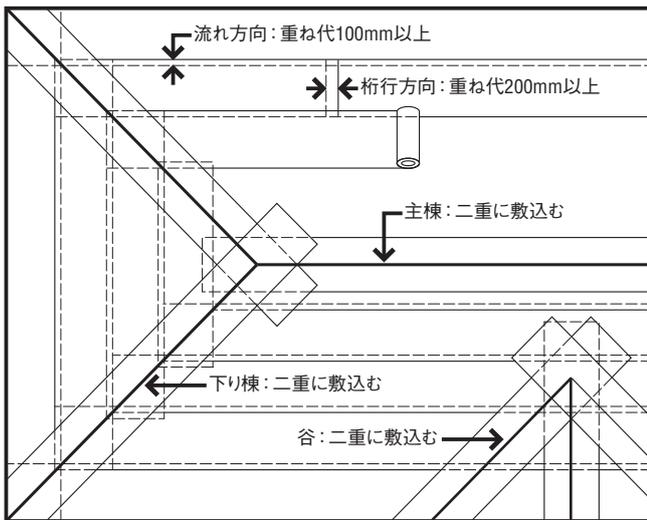
2 下葺材の敷込み

2-1 野地板に下葺材 (アスファルトルーフィング 940 以上またはゴムアスシート) を敷込みます。

- 葺き方は必ず軒先の先端から棟に向かって並行に敷込みます。

※下葺材の重ね寸法を守り、下地が湿っているときや雨天時の敷込みは避けてください。

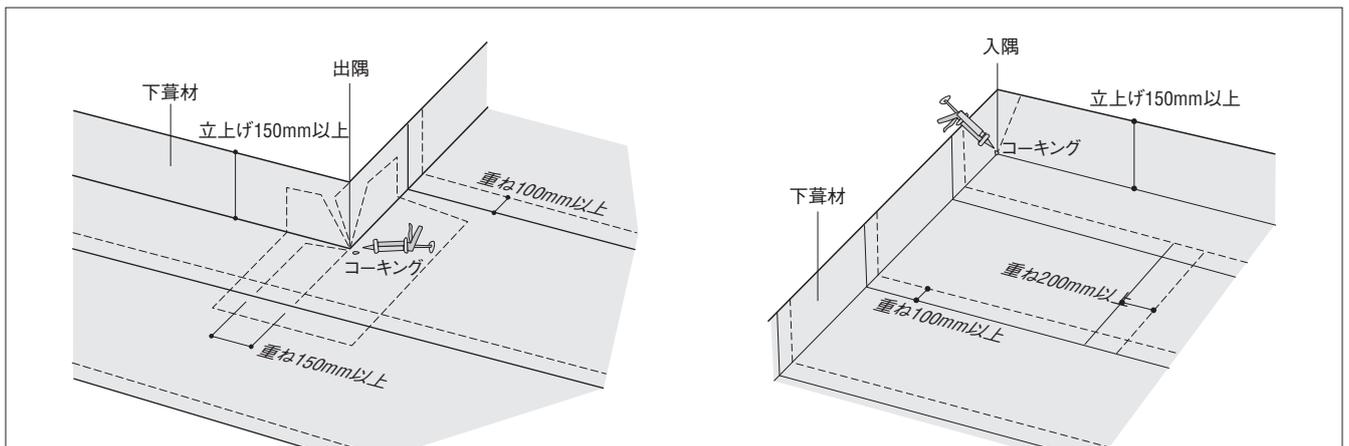
- 下葺材の重ね寸法 (基準)
流れ方向→100mm 以上
桁行方向→200mm 以上
主棟・下り棟・谷部は二重に敷込みます。
- 本谷があるときは下葺材を水上から水下まで通して敷込んで、二重に増貼りし、本谷を仮止めておきます。



2-2 出隅・入隅があるとき

出隅・入隅部は二重に敷込んで150mm以上で立上げます。

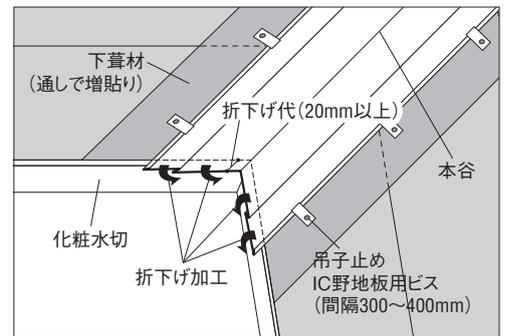
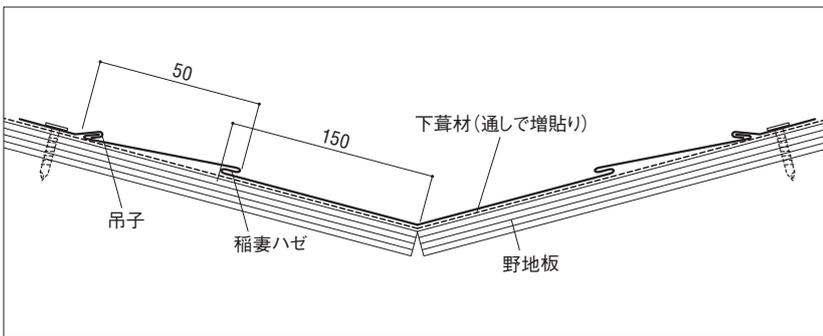
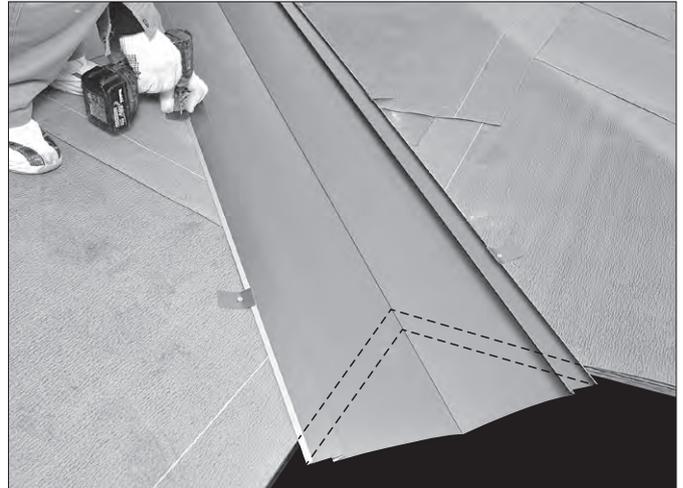
※軒先、棟、雨押えなどの各取合は現場施工になります。



3 本谷の取付け

3-1 本谷や下り棟があるときは、墨出し線に合わせて本谷、下り棟を先に取付けておきます。

- 軒先部を50mm取って切断した本谷は軒先に合わせて折下げておきます。
- 本谷をつなぐ重ね代は50mm以上取り、コーキング処理を施し、必ず棟側を上にして重ねます。
- 水上部の先端も寸法に合わせて切断し、つかみで立上げコーキング処理を施します。



▲重ね部は50mm以上取りコーキング処理



▲水上部の先端は寸法に合わせて切断

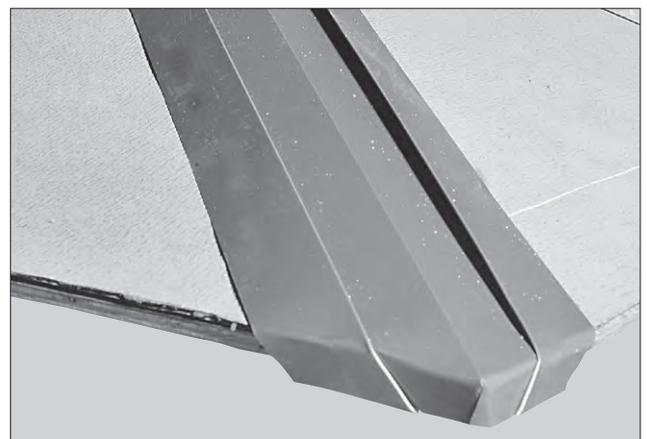


▲つかみで立上げコーキング処理

4 下り棟の取付け

4-1 下り棟があるとき

- 下り棟があるときは、棟芯に合わせて捨水切 (下り棟用) を取付けます。
- 捨水切の軒先部は、先端をつかみで折下げておきます。



▲捨水切(下り棟用) の納め

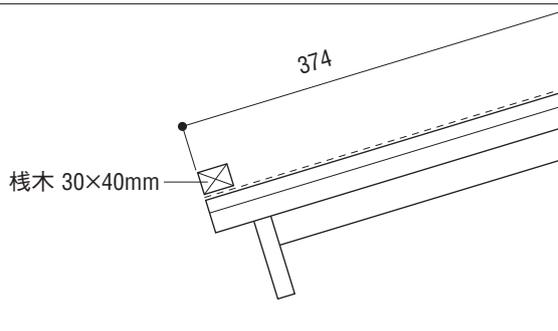
5 椼木の取付け

5-1

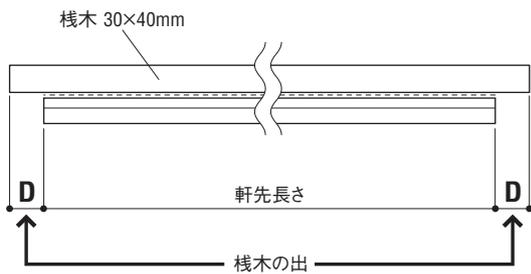
1段目は軒先瓦の有効幅374mm。
2段目以降は本体瓦の取付有効幅364mmで
墨を張り、ピッチ通りに椼木(30×40mm)を取付
けます。

※椼木の取付けピッチに狂いが出ると、本体の取
付けが出来なくなります。本体瓦を仮置きし、ピ
ッチを調整しながら正確に取付けてください。

軒
先



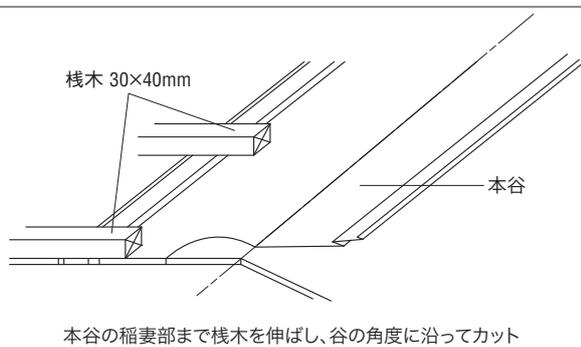
け
ら
ば



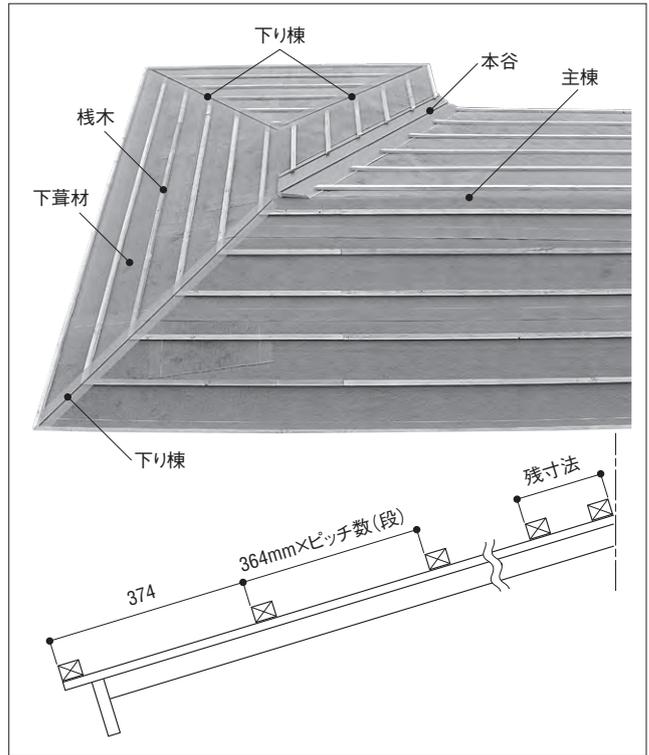
- ①軒先の長さから420mm(左右袖瓦寸法：210+210)を引く
- ②引いた長さを210mm(本体1山ピッチ)で割り、小数点を切上げる
- ③切上げた数字に210を掛け、その長さから軒先の長さを引くと…その差が椼木の出となるので、左右均等に振分ける(D寸法)

例：軒先長さ9960mmの場合の椼木の出(D寸法)
 $9960 \div 210(1山ピッチ) = 47.42 \rightarrow 48(切上げ)$
 $48 \times 210 = 10080$ $10080 - 9960 = 120$
 120mmが椼木の出となるので、左右に60mmずつ振分ける

本
谷



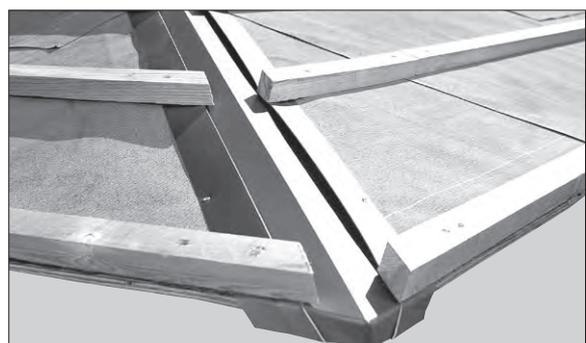
本谷の稲妻部まで椼木を伸ばし、谷の角度に沿ってカット



椼木に沿ってケミカル面戸を敷込む



本谷は稲妻部まで椼木を伸ばして取付ける



捨水切り棟用と椼木の取付け

6 ケミカル面戸の敷込み

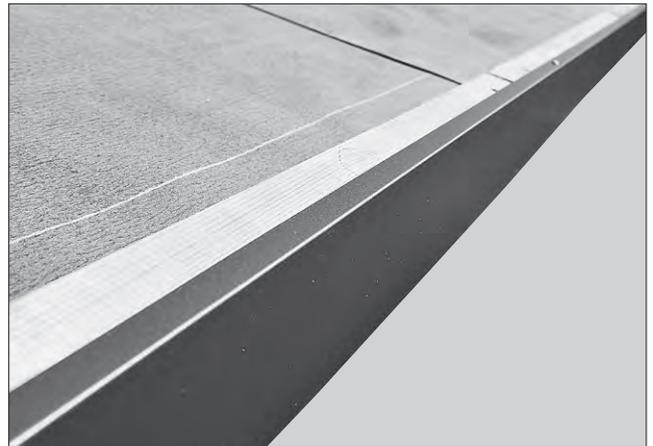
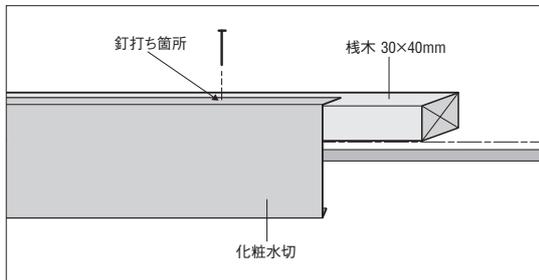
- 6-1 本谷に止め付けた棧木の出をカットして先端を揃え、片面粘着のケミカル面戸（エプトシーラー）を敷込みます。



▲ケミカル面戸による本谷の雨仕舞い

7 化粧水切の取付け

- 7-1 化粧水切は軒先の左側から重ね代50mm以上で取付けます。
※既存の軒先取合いについては現場対応になります。



▲化粧水切の取付け

8 断熱材の敷込み

- 8-1 ●断熱材（バックアップ材）を棧木間に敷込みます。
●棟や谷部は棧木に合わせてカットして敷込みます。
※断熱材（バックアップ材）の表面は、本体瓦と同じ波形状に成型されています。施工のさい波形が合うよう位置を調整しながら敷込みます。
※断熱材は風による飛散を防ぐため「先行敷込み」は避け本体瓦の取付けと並行して行ってください。



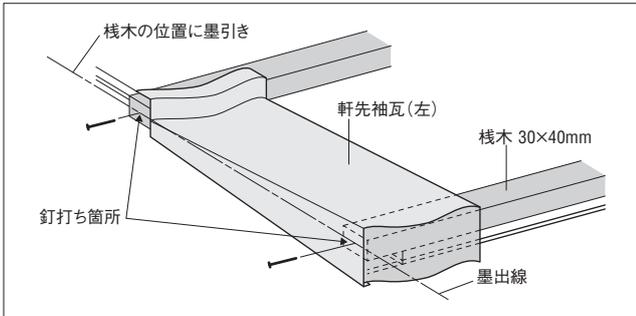
▲ポリスチレン製の断熱材（バックアップ材）の敷込み

9 軒先袖瓦・軒先瓦の施工

9-1 軒先袖瓦

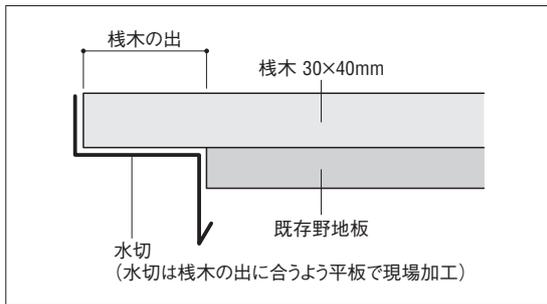
栈木の1段目、軒先左端に軒先袖瓦（左）を取付け、側面の下がり部に釘止めします。

- 栈木の位置に墨を引いておき、その中心に釘止めしてください。

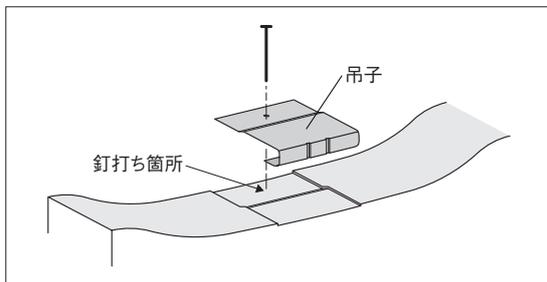


9-2 栈木が下から見える時

割付によりければ側の栈木が長く出てしまったり、下から見えてしまう時は、水切を平板で現場加工して取付けておきます。



9-4 軒先袖瓦・軒先瓦の吊子の取付けは、本体中央部にある「くぼみ」に合わせ1山おきに取付けます。



9-3 軒先納めは、吊子で軒先袖瓦（左）を栈木に固定してから軒先瓦を取付けます。

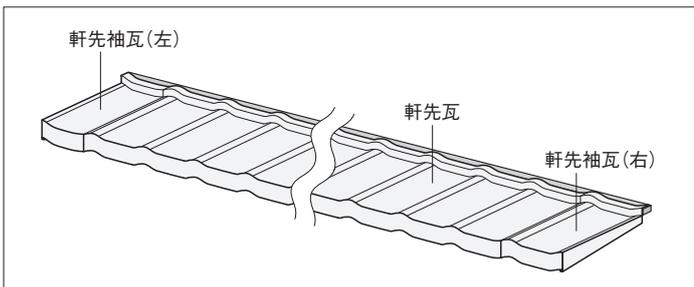


▲軒先袖瓦を吊子で固定し軒先瓦を取付ける

9-5 軒先瓦は左から右に向かって吊子で固定し最後に軒先袖瓦（右）を取付けます。



▲軒先瓦は左から右方向に取付ける



10 袖瓦・本体瓦の施工

10-1 2段目以降の葺き方

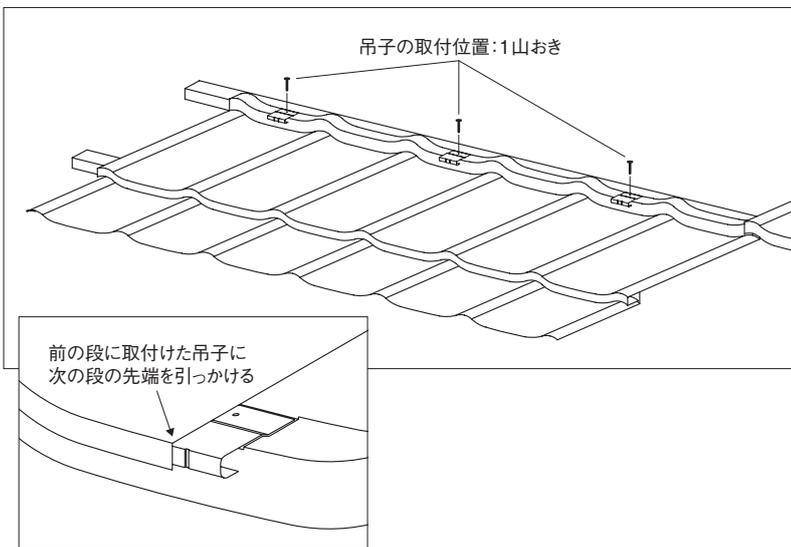
2段目以降は左右両端に「袖瓦」と「本体瓦」を用い左から右に向かって葺き上げます。

- 袖瓦(左右)は必ず全山吊子で固定してください。
- 本体瓦は1山おきに吊子で固定します(本体瓦1枚につき吊子3個使用)。
- 右端まで葺き終えたら次の段に移り、前段に取付けた吊子に次の本体瓦の先端を引っかけて取付けます。

※本体瓦の重ね部を上下段で千鳥に葺くと一段と優美に仕上がります。



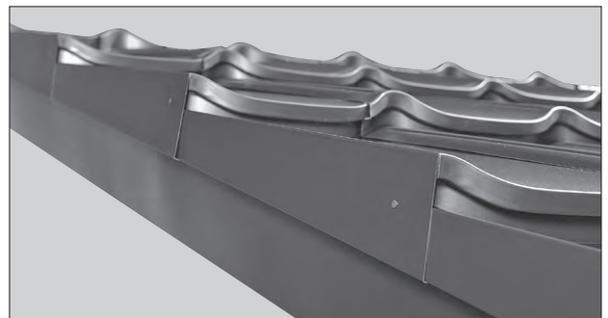
▲袖瓦(左)を吊子で固定し本体瓦を取付ける



▲吊子の取付け

10-2 袖瓦の取付け

袖瓦は軒先袖瓦と同様、墨を引いた桟木の位置に袖瓦の側面を合わせステンレスクリュー釘(1箇所)で止め付けます。

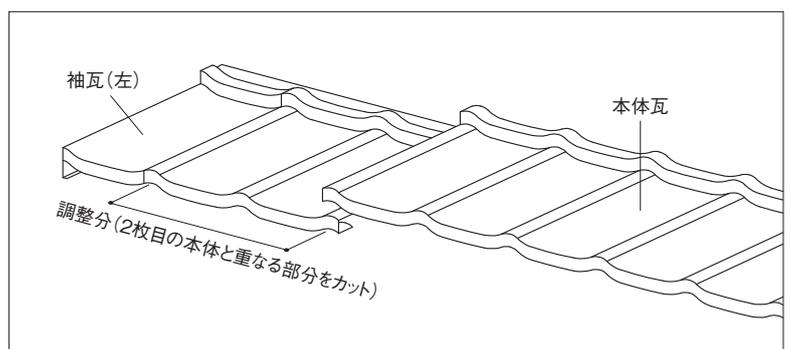


▲袖瓦の取付け

10-3 本体瓦を調整分として使う葺き方

割付によって本体の何枚かが半端になったときの葺き方です。

- 袖瓦(左) 本体(列・1枚目)を調整分とし、2枚目の本体が重なる部分をカットして施工します。



11 雪止め金具の取付け

11-1 雪止め金具は2段目と3段目に固定用ビスを2本使って取付けます。

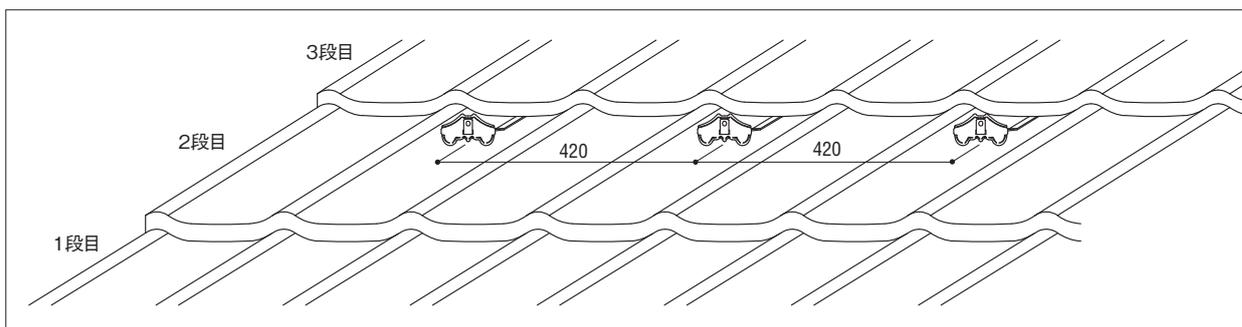
※多雪地域の場合は別途ご相談ください。

◆1列の場合

- 軒先から2段目に420mmピッチ（1山おき）で取付けます。

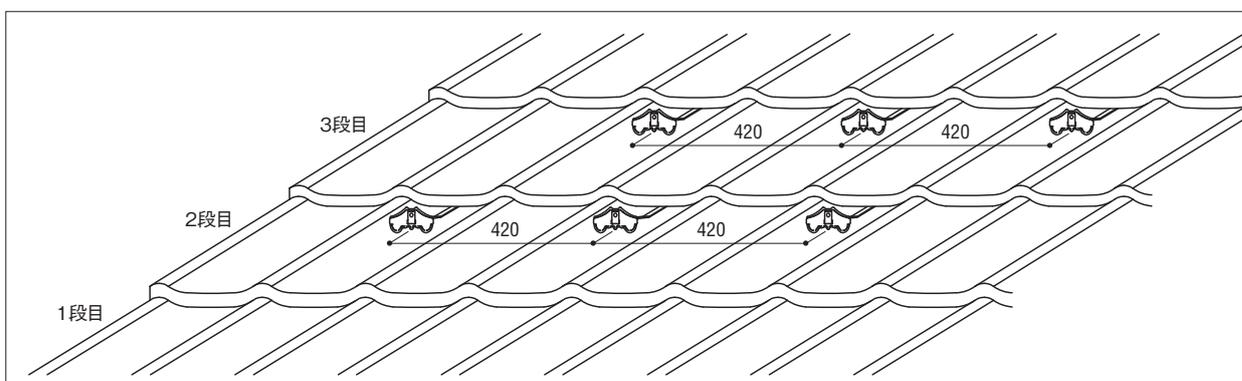


▲軒先から2段目の取付け



◆2列の場合

- 軒先から2段目に420mmピッチ（1山おき）で取付け、3段目は420mmピッチで千鳥に取付けます。



▲軒先から3段目の取付け

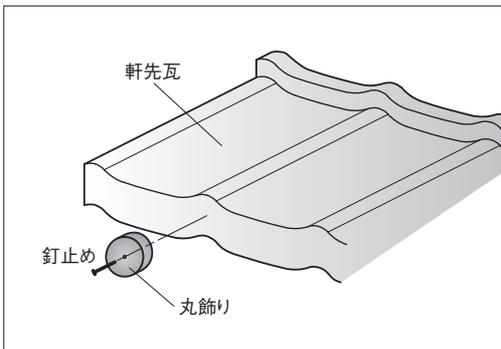


▲取付け完成

12 軒先丸飾りの取付け

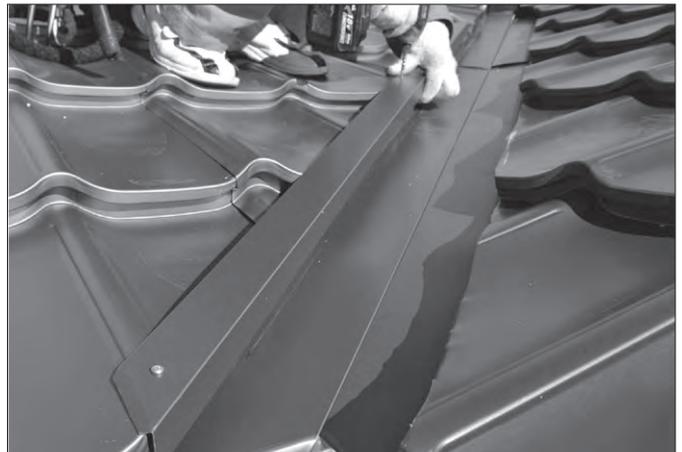
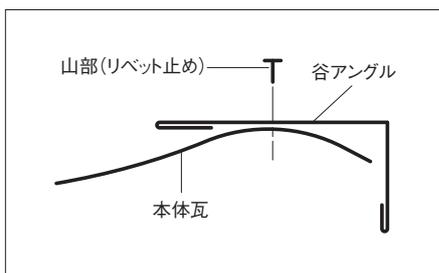
12-1 軒先丸飾りは1段目の軒先瓦に取付けます。

- 軒先瓦の波形の曲面に丸飾りを合わせ、穴があいている中心部からステンレス製のスクリー釘で取付けます。

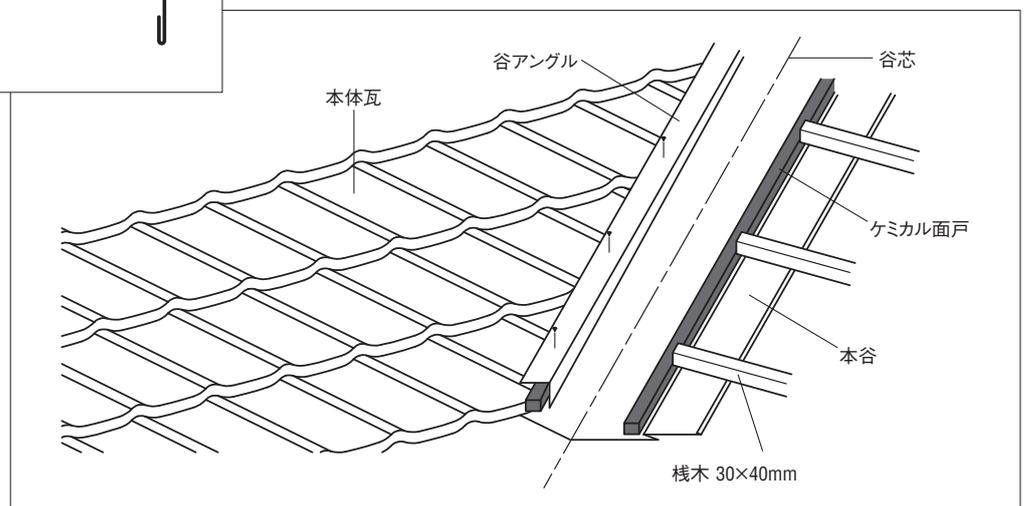


13 谷アングルの取付け

- 13-1
- 本谷の棧木の出に合わせて本体瓦をカットし、先に敷込んだケミカル面戸と共に谷アングルを被せて取付けます。
 - 谷アングルは釘止めできないので、本体瓦の山部にリベットでかします。
 - 谷アングルの重ね代は50mm以上とり、コーキング処理して必ず棟側を上にして重ねます。



▲本谷瓦の山部にリベット止めた谷アングル



14 下り棟の納め (寄棟用)

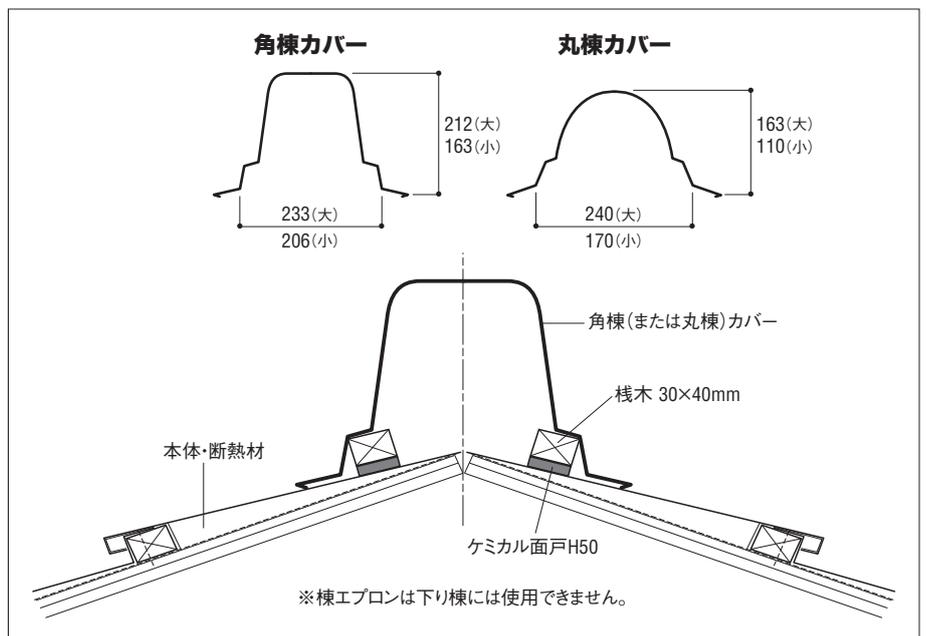
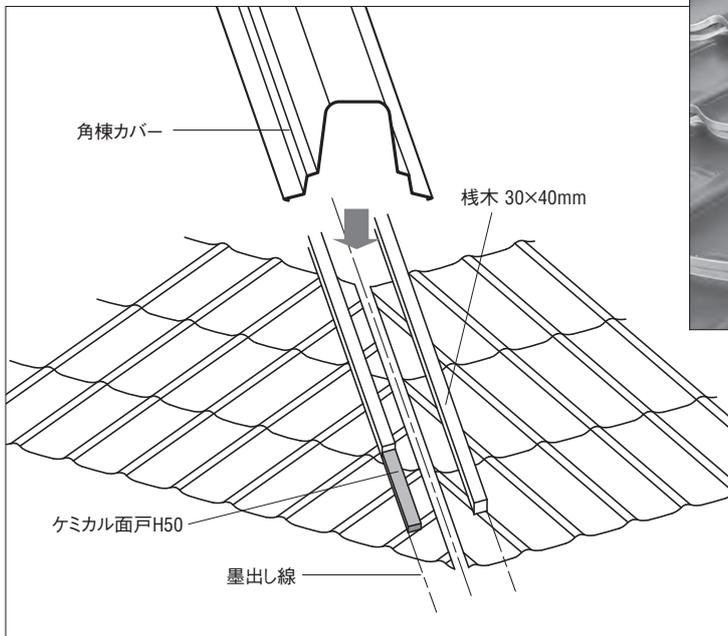
- 下り棟は「捨水切」の取付け→栈木の取付け→断熱材の敷込み→屋根葺き作業までの工程は主棟と同じです。
- 異なるのは「棟エプロン」が使えないので「ケミカル面戸」からの作業になります。
- 下り棟に沿ってケミカル面戸を敷込み、栈木と一緒に押え込むようにして本体瓦に圧着します。
- 防水材と一体化した栈木は、ステンレススクリーニングで本体瓦を介し野地板の栈木に固定、角棟カバー (または丸棟カバー) を取付けます。



▲本体瓦を葺き終えた下り棟

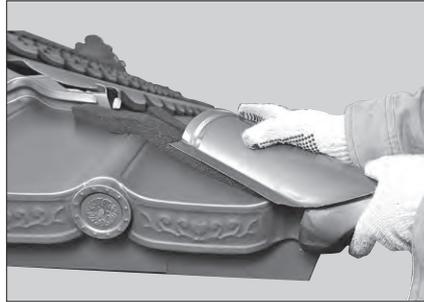


▲下り棟の施工はケミカル面戸の敷込みから。ケミカル面戸は栈木で押え込んで本体瓦に圧着

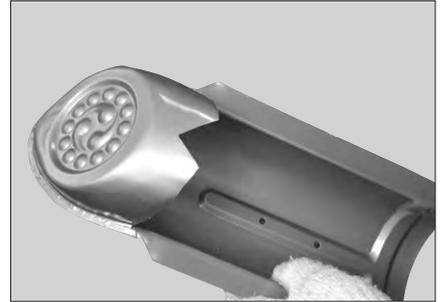


14-2 下り棟・鬼飾り
(寄棟用) の取付け

- 鬼飾りと1対の「そり巴」を取付けます。そり巴が本体瓦と干渉していないか現場で確認します。
- そり巴の先端が本体瓦の一部に当たって取付けできないときは、現場合わせで干渉部を切り取ります。
- そり巴を鬼飾りにボルト・ナットで取付けます。
- 鬼飾りは本体瓦にそり巴の前後4か所にリベットでかしまめて止め付けます。



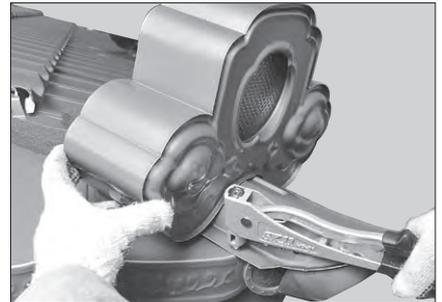
①そり巴は本体瓦に干渉しないか事前に確認



②V字にカットした干渉部。入らないときは現場でV字などにカットする



③そり巴を鬼飾りに止め付ける



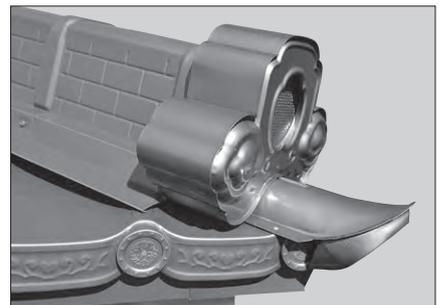
④そり巴と鬼飾りは本体瓦にリベットでかしまめる

14-3 角棟カバーの取付け

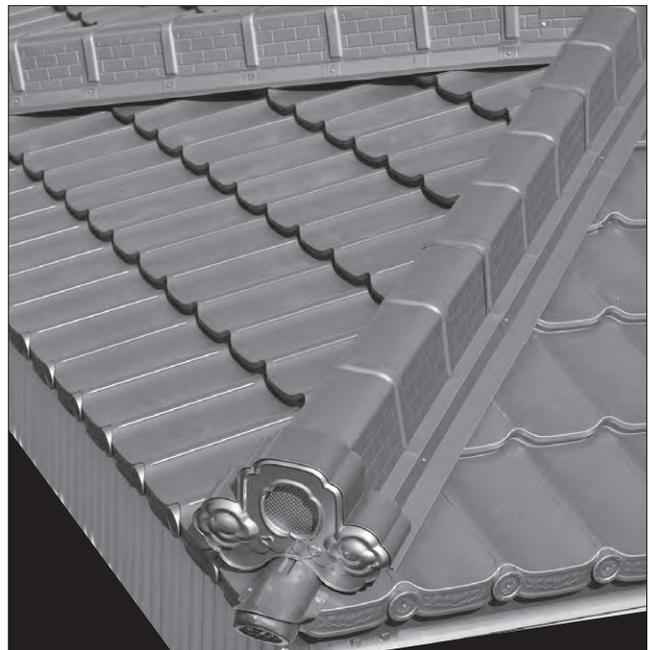
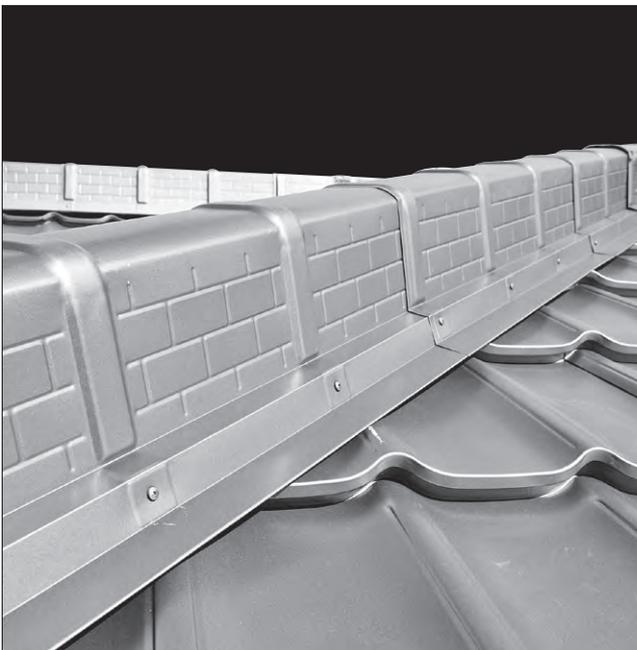
- 角棟カバー(または丸棟カバー)を本体瓦に止め付け、鬼飾りをリベットでかしまめコーキング処理を施します。



⑤角棟カバーを鬼飾りに取付けコーキング処理



⑥完成した下り棟の鬼飾りと角棟カバーの納め



15 主棟の納め

15-1 本体瓦のカット

- 本体瓦を棟芯に合わせてカットします。

15-2 断熱材の敷込み

- 棟の幅に合わせて断熱材（バックアップ材）を切断して敷込みます。

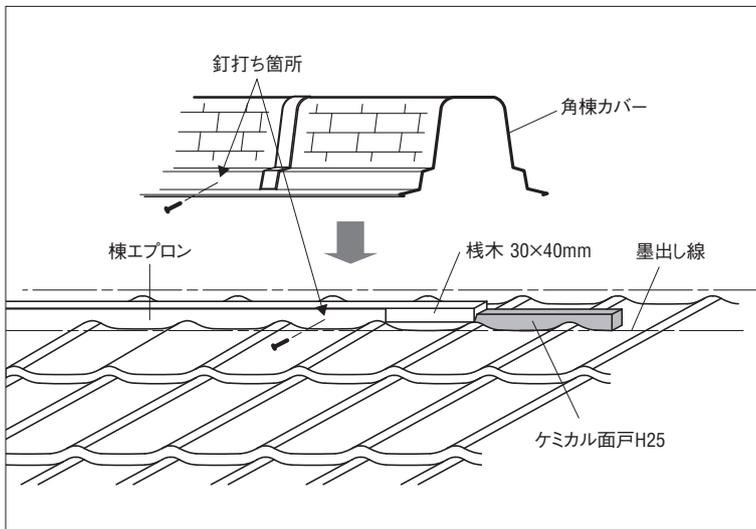
15-3 本体瓦の固定

- 棟芯に合わせて調整した本体瓦をステンレススクリー
ン釘で棧木に固定します。

15-4 ケミカル面戸の敷込み

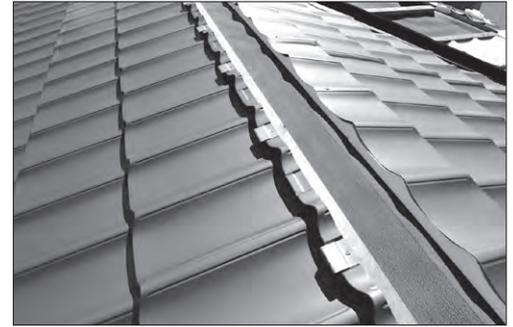
- 棟の幅に合わせて墨を出し、墨より少し内側にケミカル
面戸H25を敷込みます。

※ケミカル面戸は片面が接着面になっています。この接着面を下にして本体瓦に敷込み、棧木（30×40mm）を上から潰すようにして本体瓦に圧着します。この時ケミカル面が棧木からはみ出さないよう注意してください。

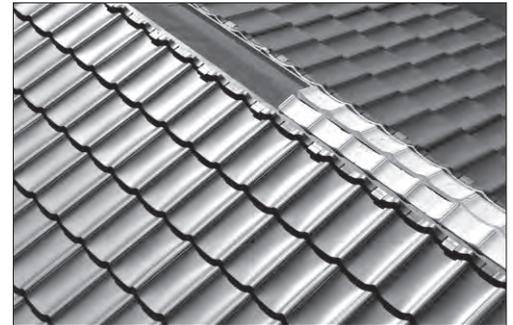


15-5 棟エプロンの取付け

- 棟エプロンは棧木に合わせ、本体瓦の波形に重ね合わせ
て取付けます。



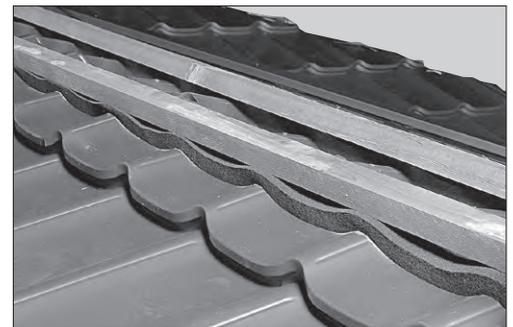
①棟芯に合わせてカットした主棟部



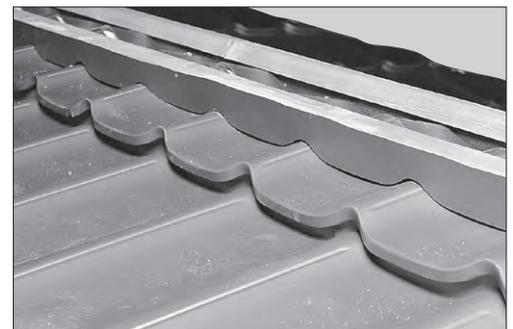
②断熱材を棟幅に合わせて断裁して敷込む



③棟で寸法調整した本体瓦の納まり



④ケミカル面戸の敷込み



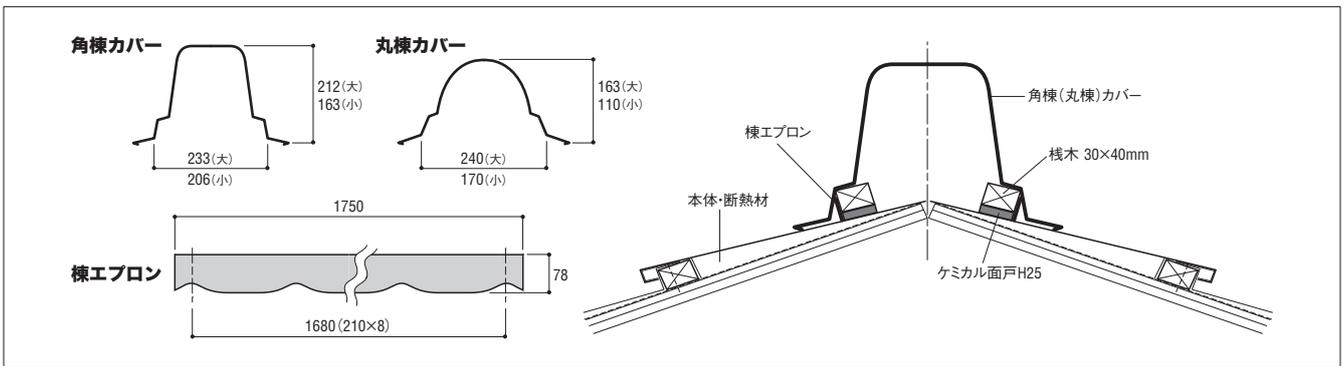
⑤棟エプロンを棧木に取付け

15-6 角棟カバー（または丸棟カバー）の取付け

- 角棟カバー・丸棟カバーは、右端の山と右端の山が合うようになっています。
- 葺き方は棟の左端から右側に向かって椽木に固定します。

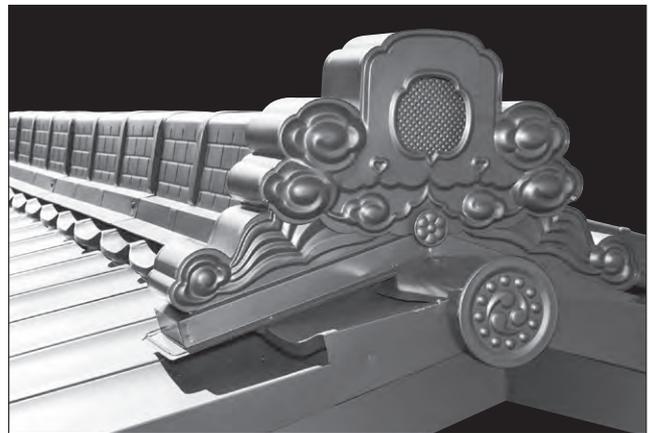


⑥角棟カバーの取付け



16 鬼飾りの納め(主棟切妻用)

- 16-1
- ①鬼飾りの取付け部はケミカル面戸で二次防水処理を行います。
 - ②防水処理したケミカル面戸に鬼飾りを被せ本体瓦にリベットでかしましめます。
 - ③主棟と直巴は現場対応で取付けますが、直巴が本体瓦の一部に当たる時は鉋や掴みで調整して取付けます。
 - ④鬼飾りに直巴をはめ込み、両端をリベットで本体瓦に止め付けます。
 - ⑤鬼飾りと棟の取合いは、直巴を屋根勾配に合わせて立上げリベットでかしまめコーキングして完成です。



⑤完成した主棟鬼飾りと角棟カバーの納め



①ケミカル面戸で二次防水処理



②鬼飾りの取付け



③直巴のはめ込み調整

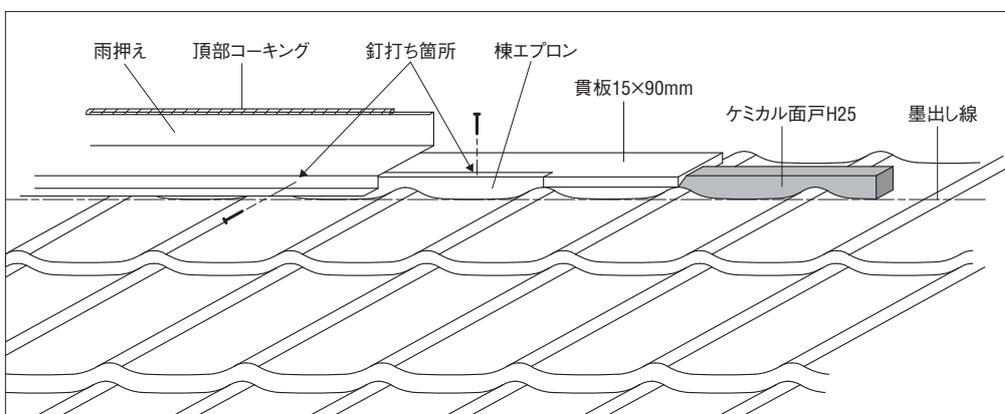


④直巴のリベットかしまめ作業

17 壁面の納め

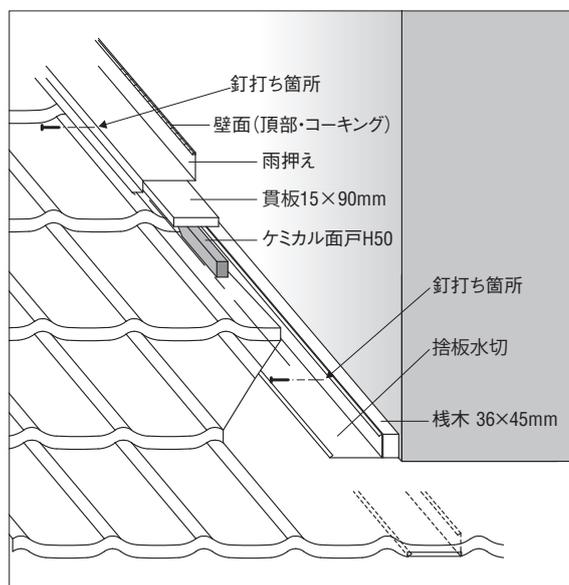
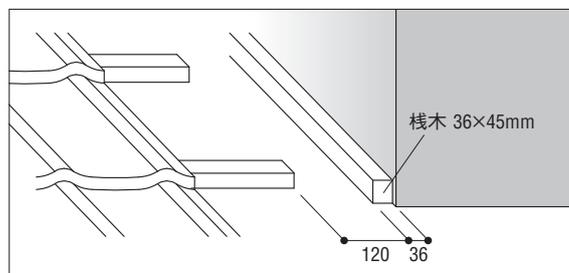
17-1 桁側の雨押え

- 本体瓦を壁に当たる位置でカットします。
 - 雨押えの取付位置に合わせ墨を引き、墨線より少し内側に「ケミカル面戸H25」の接着面を下にして本体瓦に敷込みます。
 - 貫板 (15×90mm) の取付けは、敷込んだケミカル面戸を上から潰すように本体瓦に圧着します。
- ※ケミカル面戸は貫板からはみ出さないよう注意して取付けてください。
- 棟エプロンは本体瓦の形状に合わせてながら貫板にステンレススクリーナで止め付けます。
 - 棟エプロンが貫板より高くなる時は叩いて平らにしてください。
 - 雨押えの重ね代は50mm以上、重ね部はコーキング処理を行い、左から右側に向かって取付けます。
 - 雨押えを取付けたら、壁との取合いにコーキング処理を行います。



17-2 妻側の雨押え

- 壁の妻側に沿って栈木 (36×45mm) の45mmを立てて取付け、栈木を捨板水切の取付け位置 (壁から160~170mm程度) に合わせてカットします。
 - 栈木に沿って捨板水切を取付けます。重ね代は50mm以上、棟側を上にして重ね、コーキング処理を行います。
 - 本体瓦を捨板水切に合わせてカットします。この時、捨水切りから入る雨水を外に出すため、1部をカットして排出口を作っておきます。
 - 雨押えの取付け位置に墨を引き、墨から少し内側にケミカル面戸H50の接着面を下にして本体瓦に敷込んでください。
 - 墨に合わせて貫板 (15×90mm) を取付けます。貫板はケミカル面戸を上から潰しながら敷込みます。
- ※ケミカル面戸は貫板からはみ出さないよう注意してください。
- 雨押えを取付けます。重ね代は50mm以上、棟側を上にして重ねてコーキング処理を行います。
 - 雨押えを取付けたら、壁との取合いにコーキング処理を行います。
- ※既存の壁の取合いやコーナー部は現場での対応になります。



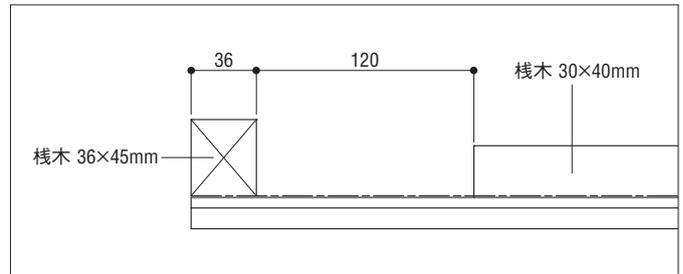
18 洋風納めの場合 (オプション仕様)

皇瓦の洋風納めは「けらばの納め」を除き、和風納めと同じ手順で行います。

18-1 けらばの棧木取付け

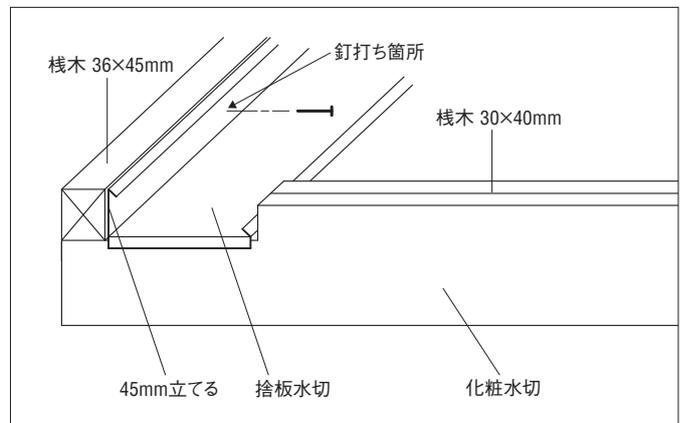
- けらばの端に棧木 (36×45mm) を取付け、棧木の内側から捨板水切の寸法120mm分をカットします。

※棧木の取付けピッチは必ず守ってください。



18-2 捨板水切の取付け

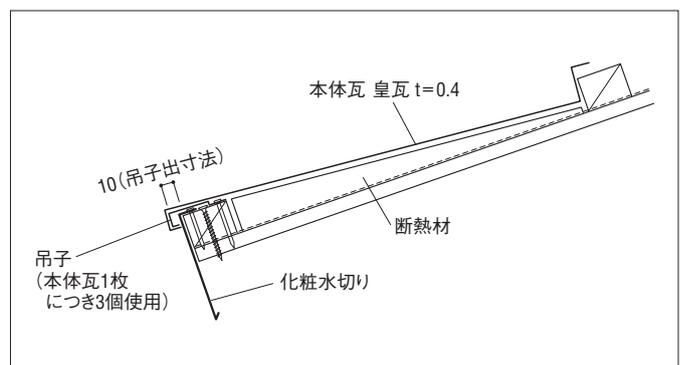
- 化粧水切は捨板水切が入るよう加工しておきます。
- 捨板水切の重ね代は50mm以上、コーキング処理を行い必ず棟側を上にして重ねてください。



18-3 軒先は本体瓦を使用

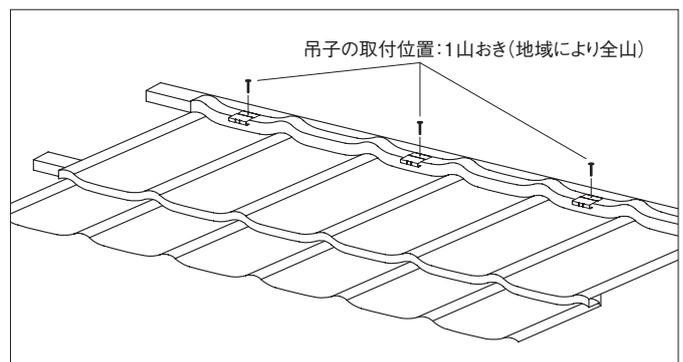
- 洋風の軒先は本体瓦を使って納めます。
- 本体瓦は、左右対称に葺いて行きます。

※洋風には軒先袖瓦は使いません。



18-4 本体瓦の取付け

- 2段目以降は本体瓦を左から右に吊子で固定しながら葺きます。
- 吊子は基本的に1山おきに取付けますが、積雪地や強風地域では全山に取付けてください。

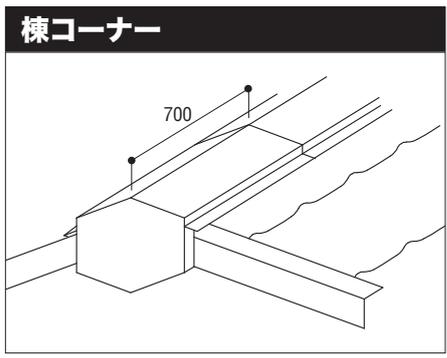
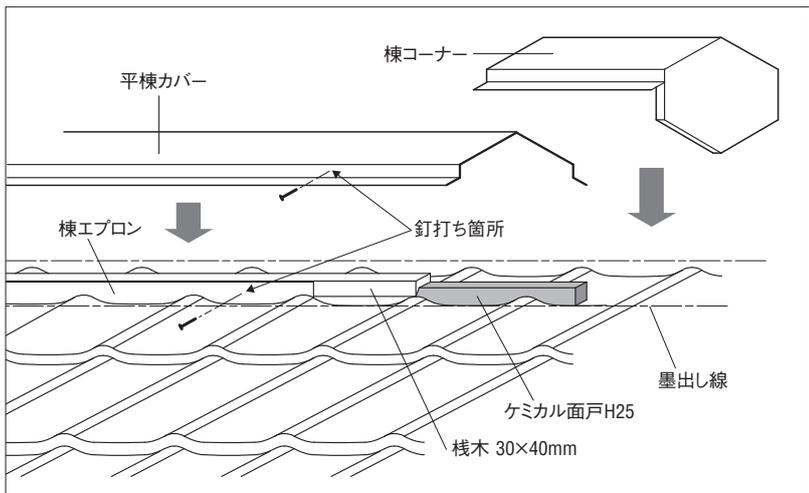


19 主棟・下り棟の納め

19-1 主棟の取付け

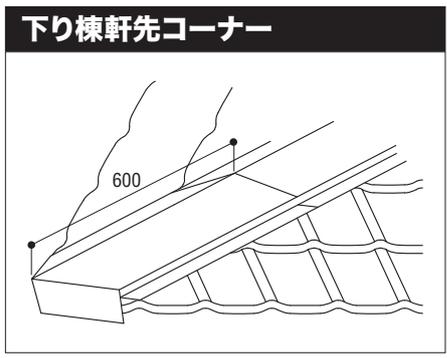
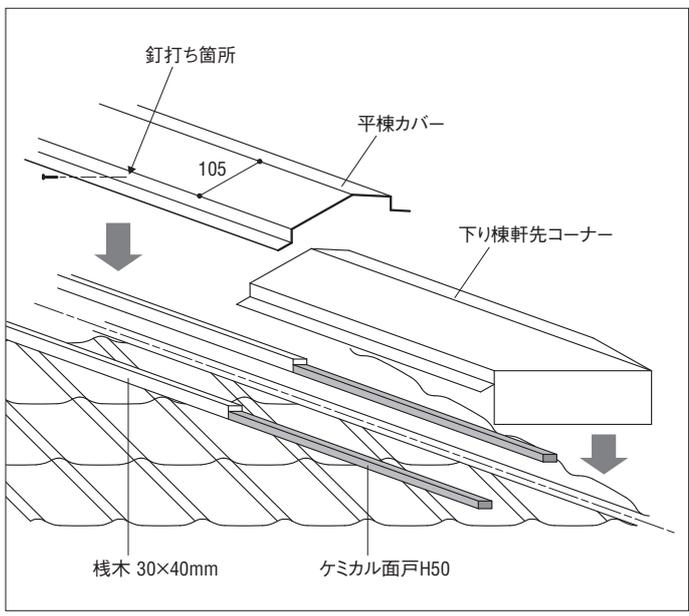
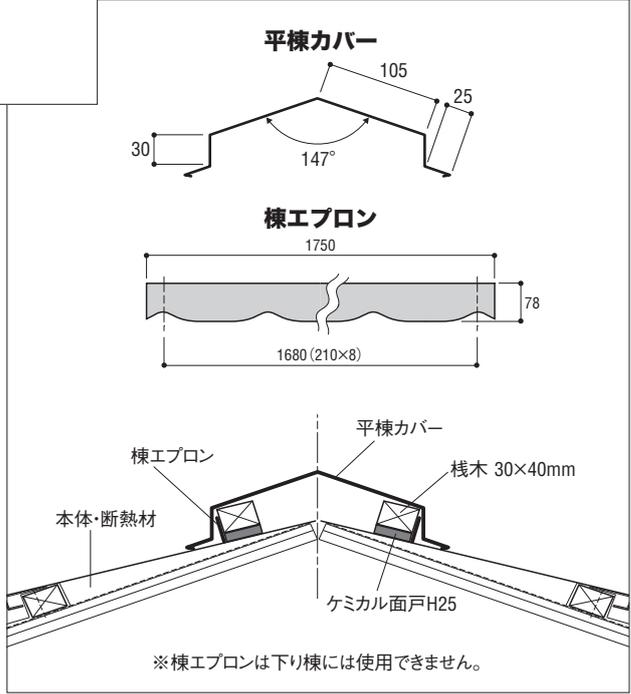
- 本体瓦を棟芯に合わせてカットします。
 - 栈木 (30×40mm) はケミカル面戸を上から潰しながら本体瓦に圧着します。
- ※ケミカル面戸は栈木からはみ出さないよう注意して取付けてください。
- 棟エプロンを本体瓦の形状に合わせて栈木に取付けます。

- 平棟カバーは棟の左端から取付けます。重ね代は50mm以上取り、重ね部はコーキング処理します。
- 主棟の両端に棟コーナーを取付けます。



19-2 下り棟の施工

- 下り棟の納めは棟エプロンが使えないので、作業はケミカル面戸の敷込みからになります。
- ケミカル面戸を栈木と一緒に取付けたら平棟カバーを取付けます。
- 平棟カバーの先端には「下り棟軒先コーナー」を取付けます。

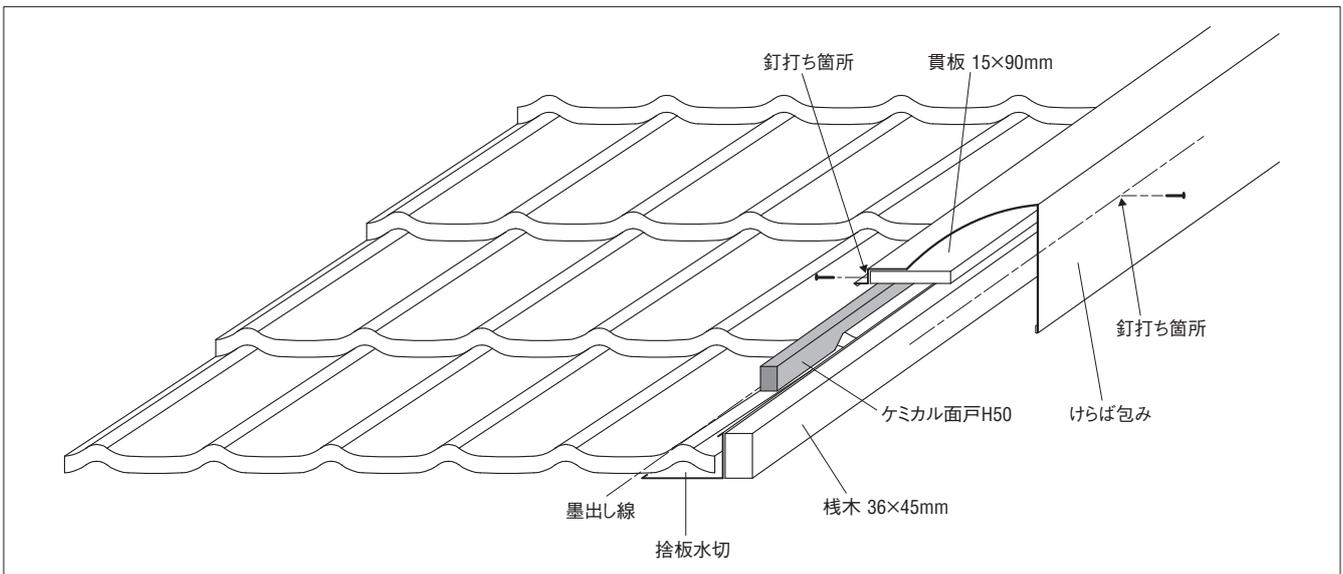


20 けらば部材の取付け

20-1 けらば包みの取付け

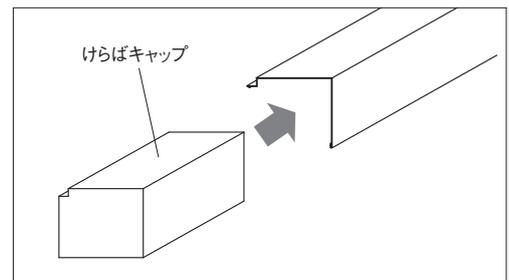
- けらばの端から100mmのところ墨を出し、墨から少し内側にケミカル面戸H50を接着面を下にして本体瓦に敷込みます。
 - けらばの端から10mmの位置に貫板(15×90mm)を取付けます。その際ケミカル面戸が貫板からはみ出さないよう注意してください。
- ※栈木から貫板の端までの寸法が100mmを超えると、けらば包みの幅が100mmなので取付けできなくなります。貫板の取付けは慎重に行ってください。

- けらば包みを取付けます。重ね代は50mm以上、重ね部はコーキングで処理し、必ず棟側を上にして重ねてください。

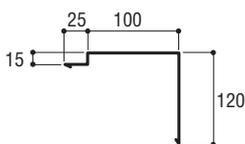


20-2 けらばキャップの取付け

- けらば包みの先端には「けらばキャップ」を取付けます。
- キャップはけらばの内側に入れて50mm程度重ね、重ね部にコーキングを施し、横から釘打ちします。



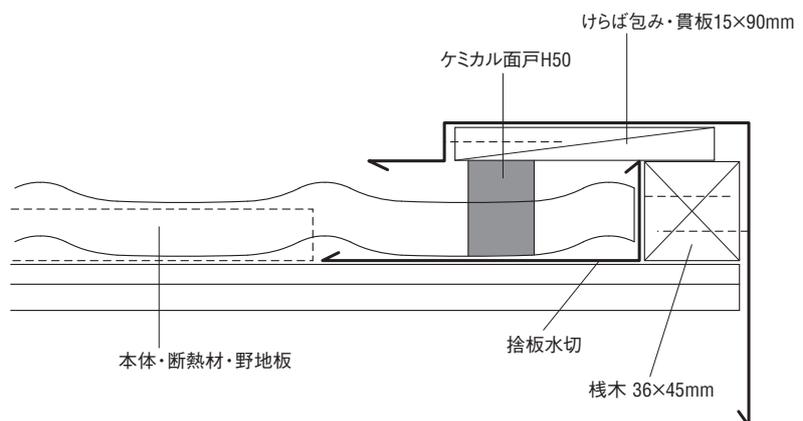
けらば包み



捨板水切



けらばの先端にはけらばキャップを取付け
軒先より棟側を見て、右側→右、左側→左





稲垣商事株式会社

<http://www.inagakishoji.co.jp/>

本社	〒101-0024	東京都千代田区神田和泉町1-1	TEL.03(3863)0351	FAX.03(3851)1340
東京東部営業所	〒124-0012	東京都葛飾区立石5-7-23	TEL.03(3697)8221	FAX.03(3693)3021
東京西部営業所	〒202-0021	東京都西東京市東伏見6-9-11	TEL.042(465)6666	FAX.042(461)6653
神奈川営業所	〒224-0043	神奈川県横浜市都筑区折本町375	TEL.045(470)7821	FAX.045(470)7685
千葉営業所	〒261-0002	千葉県千葉市美浜区新港76	TEL.043(242)1331	FAX.043(242)5162
埼玉営業所	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町1-383	TEL.048(664)2291	FAX.048(664)2290
茨城営業所	〒315-0052	茨城県かすみがうら市下稻吉2648	TEL.0299(59)5588	FAX.0299(59)5820
栃木営業所	〒329-0502	栃木県下野市下古山2959	TEL.0285(53)6200	FAX.0285(53)5981
群馬営業所	〒379-2233	群馬県伊勢崎市平井町1304	TEL.0270(63)4611	FAX.0270(63)4622
仙台営業所	〒981-1226	宮城県名取市植松4-3-9-2	TEL.022(395)6788	FAX.022(382)9020
東京加工工場	〒124-0012	東京都葛飾区立石5-7-23	TEL.03(3697)8221	FAX.03(3693)3021
千葉加工工場	〒261-0002	千葉県千葉市美浜区新港76	TEL.043(242)1331	FAX.043(242)5162
神奈川加工工場	〒224-0043	神奈川県横浜市都筑区折本町375	TEL.045(470)7821	FAX.045(470)7685
群馬加工工場	〒379-2233	群馬県伊勢崎市平井町1304	TEL.0270(63)4611	FAX.0270(63)4622
茨城加工工場	〒315-0052	茨城県かすみがうら市下稻吉2648	TEL.0299(59)5588	FAX.0299(59)5820